

近畿中国局フォレスターNEWS

田辺市林業成長産業化運営協議会総会に出席（和歌山県）



田辺市林業成長産業化運営協議会総会の様子

7月31日に開催された田辺市林業成長産業化運営協議会総会に和歌山森林管理署長外関係職員2名が出席しました。

この協議会は、平成29年に地域の森林資源の循環利用を進め、林業の成長産業化を図ることにより、地元利益を還元し、地域の活性化に結びつける取組を推進するため、「林業成長産業化地域」として田辺市が選定されたことから、開催されているものです。

当日は、和歌山県林務担当者20名が出席し、規約の改正、事業説明について事務局（田辺市）から説明が行い、承認されました。

出席者から出された主な意見等は、「森林計画のゾーニングの変更について」のほか、和歌山署からは「田辺市全体の路網位置を整理した図面を作成

中であり、完成後は協議会に提供するので取組の参考として欲しい」と意見を出しました。事務局からの回答では、「森林計画のゾーニングについては今後検討していく。森林管理署から提供される図面については、今後活用する。」との回答がありました。

また、今年度の事業計画についても、林業成長産業化に向け積極的に進めていくことで、一致しました。

和歌山署では、今後も同協議会関係者と連携を図りながら田辺地域の林業成長産業化に取り組んでいきます。

長崎県の獣害対策視察を受け入れ（岡山県）

岡山森林管理署は、8月28日、ニホンジカの捕獲方法等について、長崎県職員による現地視察を受け入れました。

現地視察では、赤松山国有林（美作市）において、今年度からニホンジカの捕獲方法として採用した「小林式誘引捕獲」や従来から採用している「首用くりわな」について、事業受託者と連携して特徴や効果等を説明し、意見交換等を行いました。参加者からは、「離島においてシカが繁殖している。下層植生が豊富にあり、餌による誘引捕獲は実施していないので、捕獲効率を上げるポイントは、どこにありますか。」と質問があり、署及び受託者から「①わなの設置作業を丁寧に行うとともにわなの場所がシカに分かりにくいよう仕掛ける②違和感なく自然の状態を作り出すことで人の足跡などの痕跡をなるべく現地に残さないこと③新鮮な餌の交換と採食状況の確認作業がポイントであることを回答しました。

次に場所を移動して、大師谷国有林（備前市）においては、獣害対策の一手法である「斜め張り防鹿柵」について特徴や効果等を説明し、意見交換等を行いました。参加者からは、「立木を利用することのメリットは何ですか。」と質問があり、署からは「支柱代の経費削減、支柱倒壊等の防止、嵩上げロープの固定が容易で堅固な状態を維持できることが有利な点」と回答しました。

岡山森林管理署では、引き続き効果の高いニホンジカの捕獲や防鹿柵の設置に取り組んでいきます。

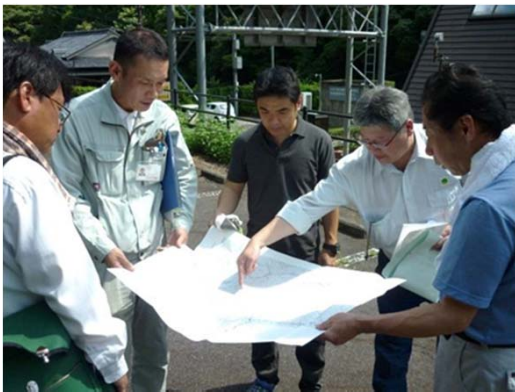


受託者の説明の様子



立木を支柱として活用した防鹿柵

新たな森林共同施業団地の設定に向けた現地検討会を実施（奈良県）



関係者による打合せの様子

奈良森林管理事務所は、7月23日、黒瀬谷国有林(吉野郡上北山村)周辺において、森林共同施業団地(以下「団地」という。)設定に向けた現地検討会を実施しました。

この黒瀬谷国有林周辺地域は、上北山村から地域の基幹産業である林業を地域振興の目玉にしたいので、国有林側でも検討してほしい旨の要望が以前からあり、これに伴う林道の整備計画案が示されました。しかしながら、吉野地方は地形が急峻で脆弱な地質の箇所が多いため、現地において地形や森林へのアクセスなどの諸条件を民国の路網の連携に向けて確認する必要性がありました。

当日は、上北山村役場及び吉野きたやま森林組合の関係者とともに現地調査や遠望等を行い、路網作設の可否や新たなルートについて、意見交換を行いました。

その結果、当初の路網計画では、岩石地や急傾斜で路網開設が困難な箇所もあることから、団地設定予定箇所の北側に位置する馬部谷国有林を起点に黒瀬谷国有林につながる尾根まで上がり、比較的なだらかで地質的にも安定していると考えられる尾根に沿って黒瀬谷国有林に到達・通過する案について、新たに検討することとしました。

今後は、新ルート一帯を、上北山村がドローン撮影を行うとともに、吉野きたやま森林組合において、新たな路線計画図を作成するなど、引き続き関係者と連携を図りながら団地の具体案を固めていくこととしています。

さらに、団地の設定に向けては、民有林林道の整備も必要であることから、次回からは、奈良県南部農林振興事務所の担当者にも参画いただくこととしています。



黒瀬谷国有林(枠内)とその周辺の様子

山口県高度林業作業士育成研修（森林調査）へ協力（山口県）

山口森林管理事務所は、8月1日、山口県農林総合技術センターで実施される山口県高度林業作業士育成研修の「集合森林調査」の実習に滑山国有林(山口市)のフィールドを提供し、講師を派遣しました。

当研修には、研修生4名、県職員3名の計7名が参加し、山口所からは職員4名が参加しました。

はじめに、山口所職員が森林調査に至るまでの手続き等を説明し、森林調査の方法について実習を交えて講義を行いました。実習では、森林調査に使用する器具の輪尺や測棹の用途及び記録方法について理解を深め、調査技術等を習得できたことと思います。

最後に、ドローンを活用した森林調査の手法についてなど、積極的に質問する研修生の姿が見られました。



輪尺の使用法を説明

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課



国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-2055

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

編集後記

今年の異常気象は、夏の猛暑と大雨に続き、台風が発生が非常に多く、各地で被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

これから秋の訪れに伴い、寒暖差が大きくなり体調を崩し易い季節となりますので、ご自愛下さい。